

各 位

共同コンピューター・ホールディングス株式会社

代表取締役社長  
吉村 昭一

( JASDAQ・コード'9685 )

問い合わせ先  
専務取締役  
相原 能文

平成20年3月期中間(連結)業績予想ならびに  
通期(連結)業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想について、平成19年5月25日付当社「平成19年3月期決算短信」にて発表いたしました平成20年3月期中間(連結)業績予想ならびに通期(連結)業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

( 単位:百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 ( A )	1,890	95	100	60
今回修正 ( B )	1,900	105	105	100
増減額 ( B - A )	10	10	5	40
増減率	0.5%	10.5%	5.0%	66.7%

(2) 修正理由

売上高、営業利益及び経常利益につきましては、企業収益の増加などからIT投資も拡大傾向で推移し、そのような状況のもとで当社グループも当初予想を僅かではありますが上回る見込であります。然しながら、一部子会社で受注減少による収益の落ち込みもあり下期の影響が懸念されます。

中間純利益につきましては、繰延税金資産に関し一部の将来減算一時差異をスケジューリングの結果などにより新たに繰延税金資産に計上いたしました。

その結果、売上高19億円、経常利益1億5百万円及び中間純利益1億円となる見込みであります。

(3) 通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	3,900	240	250	150
今回修正 (B)	3,800	210	220	160
増減額 (B - A)	100	30	30	10
増減率	2.6%	12.5%	12.0%	6.7%

(4) 修正理由

売上高につきましては、米国のサブプライム問題に端を発する世界的な金融不安や原油高など懸念材料があり先行き不透明感が残り、その影響は企業収益やIT投資の抑制にも及ぼすことが見込まれ、下期への受注活動にも影響が予想されます。

そのような厳しい状況下が予想される中で、当社グループは引き続き既存顧客を中心に受注拡大に傾注いたしますが、中間期における受注残の減少などにより、当初予想比較より1億円の減少となる見込みであります。

営業利益及び経常利益につきましても、引き続きプロジェクトの進捗管理の強化や経費の圧縮等に努めますが、上記の売上高の減少の影響により、当初予想比較より営業利益及び経常利益は3千万円の減少となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記理由による減少はありますが中間期の増加による影響で1億6千万円(当初予想比:1千万円の増加)となる見込みであります。

(5) ご参考 : 前期の実績(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(4/1～9/30)	1,831	89	92	53
通期(4/1～3/31)	3,780	195	194	146

2.平成20年3月期 単独業績予想の修正等について

単独業績予想についての開示は行っておりません。

以上

本資料は現時点における入手可能な情報に基づくものであるため実際の業績は今後様々な要因により異なる可能性があります。